令和５・６年度　第３回「おおた生涯学習推進プラン」推進会議
議事要旨

日時　　令和６年１月 19 日（金）午後２時から午後４時まで
場所　　嶺町集会室　大・小集会室
出席者　名和田委員（会長）、石垣委員、大島委員、加藤委員、小林委員、野川委員、広田委員、松橋委員、溝口委員
※倉持副会長、阿部委員、海老澤委員、白鳥委員、豊島委員欠席
（役職・50 音順）

１　開会

【会長挨拶】

昨日と一昨日は世界遺産である富岡製糸場がある富岡市というところに行っていた。富岡市に行ったのは、小規模多機能自治ということで、こちら大田区でいうとやや違うかもしれないが、地域力推進地区委員会のような仕組み。その小規模多機能自治という全国的な運動があって、参加している自治体も３００ぐらいになっていると思われるが、その関東ブロックの会議があった。私もそれに関わってきており、コミュニティ政策学会と共催であるため出席した。

２日目に公民館を二つ見た。富岡市は人口３万数千人だが１２地区に分かれていて、それぞれの地区に公民館が１個ずつ、延床面積３００数十平米ぐらいの小さい公民館がある。そこに公民館長として、再任用の職員（校長先生が多い）が配置され、市の職員（配属された公民館主事）と年度任用の事務職員の３名で運営されている。

高瀬公民館と一ノ宮公民館を見学した。両方とも学校の校長先生だった人が公民館長であったが、非常にいい動きをしていて大変勉強になった。

学びを地域での活動につなげていくために多くの人に来てもらう、参加してもらうには、小中学生があんまり公民館に来ないがどうしたら良いか相談を受けた。横浜の公民館に当たるような地区センターという比

較的大きな施設がある。そこは、小中学生の待ち合わせ場所になっているというようなことを伝えた。

見学した公民館では、とても良い動きをされていて、大田区の地域力推進地区委員会に当たる地域づくり協議会という組織があるが、わざわざその外に「円卓会議」というのを設けて、公民館主催で地域の話合いを随分している。その中で、ふだん地域活動に参加しない方々、若い人とか現役の働いている人、高校生・中学生など、非常に活発に活動している。こういう活動を８年前ぐらいから始めていて、８年前に私も１回行っているが、着実に歩みを進められている。公民館を核にしてコミュニティづくりをしているという意味では、大田区に大いに参考になる事例だと感じた。

また、先ほど地域力推進課長からご挨拶があったが、まさに地域づくりを所管しておられるという課長が、この会議に地域づくりの観点から重要性を認め、可能な限り出席されるということで、大田区でもいい動きになってきているのではないかと感じた。

委員の皆様方は、そのような非常に重要な位置づけの会議に出席しておられるということで、今後ともよろしくお願いしたい。

【会議の公開について】

- 推進会議設置要綱第７条に「策定会議は、原則として公開とする。ただし、１　公開することにより公正かつ中立な審議に著しい支障を及ぼすおそれがあると認められる場合、２　特定の者に不当な利益又は不利益をもたらすおそれがあると認められる場合、３　会議の内容に個人情報が含まれている場合は、会議の全部又は一部を非公開とすることができる」とある。本日の会議の内容には、それらに該当する内容は含まれていないため、本日の会議は公開とする。
- 会議の内容については、議事要旨を作成し、各委員に確認のうえ、区ホームページに公開する。

【会議の成立について】

- 本日は、欠席の委員が５名いらっしゃるが、委員の半数以上は出席

しているため、成立している。

２　議題

（１）第２回「おおた生涯学習推進プラン」推進会議振り返り

（２）「まちの学びの場を考えるワークショップ」開催報告

【会長】

・ 事務局から説明をお願いする。

【事務局】

・ 資料に基づき、説明。

【会長】

・ 推進会議の振り返り、ワークショップの報告について、意見、質問があったらお願いしたい。
・ スライド４、５には、ワークショップであがった意見の写真が載っているが、一つ一つの意見をじっくり読みたいという委員がいらしたら、事務局に連絡してデータをもらってほしい。

【委員】

・ 前回の推進会議の意見交換では、時間が限られており、たくさんあがった意見を咀嚼する時間が十分ではなかった。前回の推進会議であがった意見の記録があれば、共有いただきたい。
・ 話が整理されていくと、自分が言った言葉がみえにくくなってしまう。それを手放さないためにも、元の発言、思ったことをいつでも参照できるようになっているとありがたい。

【会長】

・ 前回の会議での意見交換の結果についても、後で振り返ることができるように共有いただきたい。

【事務局】

・ 承知した。

【会長】

・ 11 月 27 日は地域福祉コーディネーターや地域学校コーディネーターなど専門職のコーディネーターがわざわざ申し込みをして参加していたことに驚いた。大変勉強になるワークショップであった。

【委員】

・ 第２回のまとめと区民のワークショップのまとめを聞いたが、推進会議では出なかったが、ワークショップで出た、というようなことが、意見を整理しているなかで気づいたことがあれば、教えてほしい。

【事務局】

・ 推進会議とワークショップでいただいた意見として、コアの部分、つながりをつくることが重要などはとても似通っていたが、印象的であったのが、「自由」という言葉が全ての班であがっていたこと。時間面、参加方法、いつでも行けるというようなところが重視されているように感じた。
・ また、安心、無料、飲食というキーワードも多くの班であがっていた。非常に重要な要素であると感じた。

【会長】

・ 私も推進会議とワークショップで出た意見の違いについて気になっていた。個人的な印象では、コーディネートの重要性というようなことがワークショップで強く出ていた。
・ 事務局からの結果を聞いて、出入り自由、参加時間自由というのは、今までの地域活動のペースで組まれているスケジュールでは、若い人や現役の人は参加できないということが背景にあるのではないかと感じた。
・ また、飲食というのも重要で、先ほど挨拶のときに紹介した高瀬公民館はスペースに余裕があるので、カフェを作ってコーヒーを飲んだり、物を食べたりすることができる。ここにわざわざお菓子を持ってきて滞在する高齢の方もいるとのこと。やはりおいしい飲物や食べ物とか人を引きつけるということがあるので、飲食ができるというのは、意外と重要なのではないかと感じた。

（３） 地域の学びの場のあるべき姿及び現状・課題

【会長】

・ 議題３「地域の学びの場のあるべき姿及び現状・課題」について、事務局から説明をお願いする。

【事務局】

・ 資料に基づき説明。

【会長】

・ 事務局からの説明について、意見、質問があったらお願いしたい。
・ 前回の推進会議、11 月 27 日のワークショップでの意見を基に、事務局が学びの場のあるべき姿、現状と課題について整理した。
・ 特に６ページの役割の部分は、今後区が整備していく学びの場の理念につながる重要な部分なので、欠けている要素はないか、表現をこう改めたほうが良い、などご意見をいただきたい。
・ 事務局から問いかけがあった「新たな出会い」に代わる表現についても、アイデアがあったら、お願いしたい。本日の次第、意見交換の一つ目のテーマに当たる。
・ 本日欠席の委員からの意見を紹介する。
・ 役割としてあがった３つの要素のうち、「学びのきっかけ」、「つながり・仲間づくり」は、他の自治体でも比較的出てくる要素だが、「新たな出会い」という要素が非常に大田区の独自性になるのではないかという意見をいただいている。町工場などがたくさんあり、創造性や開拓性がある大田区らしさが打ち出せる部分なので、現在は「新たな出会い」という抽象的な表現としているが、もう少し磨き上げてわかりやすい表現にしたらよいのではないか。
・ 学びの場の役割の一つ「つながり・仲間づくり」には、学びの持続性が重要である。また、推進会議、ワークショップでの意見からあがった学びの場の役割が「地域づくり」、「孤独・孤立対策」といった行政課題の解決にも寄与するという話があったが、学びの場はあくまでも学びの場として、学びの楽しさや、区民の人生を豊かにする場という本来の目的を強調していったほうが良い、学びを行政課題解決の手段としないようにしたほうが良い、という意見をいただいている。
・ これらをふまえて、活発な議論をお願いしたい。

【委員】

・　学びは幅広く、こういう形で網羅的に書かれると何から話したらよいかわからないので、二つだけ私の感じたことを言うと、学びは何人でやるかということによっても大分違う。個人でやる場合と、少人数でやる場合、大人数と。そういうところで今回その切り口がないというのが、少し気になった。個人でやるのであれば、情報がいかにどれだけ正確に取れるか、が重要となる。図書館機能とか、情報検索機能とか、そういうような一元的に管理されていることが重要である。複数人でやるのであれば、気楽に話せるカフェ的なものが必要となる。

・　それぞれの学びの人数によって、必要な場などが変わるのではないかと感じた。

・　もう一つは、私もずっと会社員という形で社会に出ていた。リタイアして10年ぐらい経つが、そのときに知り合った仲間というのは当初知り合った仲間は10名程度までになるが、以降は減ることはあっても増えることがないので、そういう世代交代という問題がある。先ほどの委員からの意見でも持続性ということが言われているが、やはりつなげていくという持続性が非常に重要だと思う。それがここの中であまり検討されていないのではないかということが気になった。

【会長】

・　いずれも非常に新鮮な重要なご指摘であったと思う。学ぶ人数によってあり方が変わるのではないかという視点と、それから持続性という観点、私ももう少ししたら定年退職だが、それ以降出会った仲間がそんなに増えてはいかないとすると、どういうふうに自分が関わってきた活動が持続するのかとか、こういう視点でものを考えると、また持続性というキーワードが別な意味合いを帯びてくると思う。

【委員】

・　６ページの役割、学びのきっかけのところの最後のところに、人に自慢できるというところとか、その次の新しい出会い（個人の学び）のところで、自分の知識が生かせるというところとかを見ながら思ったが、私の子供が公文とスイミングに行っている。何らかの達成をその

都度認めてもらって次のステップに上がっていくというのが、子育てにすごく大事なことで、スイミングとかも級がたくさんある。公文でも今日できなかったが、明日この問題ができるようになって、少しだけ難しくなっていっての繰り返しで自信をつけていくのが良いと思っている。

・ 学んでどうするという視点がないと思った。学んだことを発揮したり、誰かに認めてもらったりしたいと思う。それこそ先ほど委員が言っていた持続というところには、多分そういう（学んだことを発揮したり、認めてもらったりという）ところが必要だと思う。活動の場というよりは活躍の場。学んだことを生かせる、これは行政側としても、こういうような学びの場に人が集まっているというのがあれば、少し上の、そういうことを学んだ人が学びたくなるような企画を提案してみるとか、今まで学んできた知識があるからこの話が分かるみたいことを（提供できると）もっと学びたいなと思うきっかけになるのではないかと思う。

・ 私のほうはどっちかというとスポーツとか、それから健康づくりの分野に関わっている。健康づくりやスポーツでは、これまでいろいろ知っていたことというのが実はどんどん知識が新しくなってきているというか、目からうろこの知識がとても多い。指導者になるかならないかは別としても、これまではこういうふうにやったと言って話をしていると、学生などから先生それはもう違うと言われることがある。20年前の話じゃ駄目ですよと言われることがある。

・ 例えば、野球の好きな子とかサッカーの好きな子がいるが、色々な技術を今はＹｏｕＴｕｂｅで学ぶ。指導者が教えてくれるのはもう知識が古過ぎる場合がある。例えば、ボールの投げ方の回転とか、どうしたらケガをしないようになるかとか、そういうことを実は経験者が若い人に教えるという時代から、逆になっているのではないかと感じる。このような交流が上手にできるようになってくると、自分自身の知識がとても増えたようでうれしくなる。生涯学習ってそんなことかなと考える。

・　つながりとか仲間づくりについて、先ほども他の委員が言ったように、色々な知識あるいは知恵が入ってきてそれをどうすると言ったときに、応用する場が欠けているように感じる。
・　もう１点は、やはり生涯学習を推進していく人材をどのように育てるかということ。ただ単に自然に出てくるものなのか、あるいはリーダーズトレーニングキャンプみたいな形をもって、もっと政策的にやっていったほうがいいのか。
・　地域の課題解決や行政の課題解決に寄与というと、やはり何でもいいではなくて、重点施策をある程度決めて、コアになる人間あるいはグループをつくらないと、多分それは推進しないのではないか。
・　総合型地域スポーツクラブでクラブマネジャーになった人たちが、その次の世代を探すがなかなかいなくて、たすきがつなげないまま弱体化しているという現実がある。そういうところも含めるとやはりやっぱり政策的な課題として、ある程度人為的にやっていかないといけないのではないかと感じる。

【会長】

・　私も大分年を取ってきて、私が学生の頃学んだ知識ってもう完全に陳腐化している。私は法学部で法律を学んだが、私の知っている法律は今ほとんど改正されていて違う内容に。根本的に違ってはいないが、違う内容になったし、それも知らないで学生からちょっと注意されるということが十分あり得る。そう考えると今のご意見は非常に含蓄がたくさんあって、例えば最近よく地域活動をＩＴ化するというのは、かなりコロナ禍の中で進んだが、そういう場合にはＬＩＮＥなどを若い人が高齢者に教えるといった場面がある。あれは実は自然の流れだということになる。

【委員】

・　学びというと範囲が限られているというか、知識が中心になっているように感じる。実際に地域で活動するのはスポーツとか文化とか芸術とかアートとか、そういうような広がりがあると思う。学びという言葉だけを見ると、視野が狭い感じがあるので、もう少し違う言葉があってもいいように感じる。

・　継続性という意味では、大田区でも私も退職した初めの頃は、人材養成講座ということで講座を受けながら、実際に講座を次の講座の企画運営をやっていて、実際に知識を活動する場が与えられていた。ところが、ある年度からそういうのがちょっと断ち切れたという感じがしている。こういうのはやっぱり継続的に、世代交代もしながら、育ててきた人を実際に現場に出して実際に経験させて、それが何年も続くような、常にこういうものは継続していく必要がある。場を与えるということも、重要だと思う。

【会長】

・　学びという言葉に代わるというか、それと並列されて常に出てくる言葉として具体的に思いつく言葉はあるか。

【委員】

・ 全く思いつかない。何か限定される言葉の感じがする。

【会長】

・　学びは、色々な活動や人とつながっていくということまで想定して考えると、学び・〇〇のような、そういう言葉があると確かにいいと私も思う。

・　学びは非常に抽象的な概念なので、それにつながるような言葉というのはなかなか難しい。

【委員】

・　生涯学習推進というところでもあるので、学びをそのまま取り替えてしまうわけにもいかないと思うが、生涯学習に初めて関わろうというような方を対象とした講座などで、学びの概念を拡張しましょうというような話をするときに、学びという言葉に含むものとして三つぐらい学びがあるのではないかという話をすることがある。

・　例えば様態として、分かるという学び、それから味わうという学び、それでできるという学び。分かるとは、知的な理解というところを中心で、味わうというのは芸術とか文化というところにもなろうと。できるというのはスポーツ、手や体を動かして、言語化されなくてもそこについていくという。そうすると、もともとの心理学的な意味での学習というの

に近い。学習の前と後で色々なものが変わったということ、色々な状態として表現できると思う。

・ ただそれには１回使ってしまうと使い慣れている言葉なので、もう少し中身を膨らませるステップがいると思う。

【会長】

・ それに関連して、いずれ事務局が一例出していただく、考えてもらうことになると思う。

【委員】

・ 最初にこの、おおた生涯学習推進プランのご案内をいただいたときに、すごく気持ちがかしこまった。ものすごいことをしなければいけないというイメージが、そもそもこの生涯学習という言葉にあった。

・ ワークショップであがったキーワードを見ても、そこに参加した方々が望んでいることは、色々なことをどんどん分かるようになっていく。どんどんできるようになっていく。自分がスキルアップ、成長していって、それこそ再就職まで行くかもしれないみたいな、昇ることを望んでいないというのを思った。何かちょっと行ってちょっと話して、何か今まで知らなかったことがちょっと知れたとか、見方がちょっと変わったとか、そんな自分が上に上っていくというよりも、この同じフラットな面で少し広がったような、そういうイメージを皆さんは持っている気がした。

・ 学び・生涯学習という言葉は、その言葉を使ってしまうことで実際のニーズと乖離していってしまいそうなイメージは持っていた。最初の回（第一回の推進会会議）でお話ししたときに、クラブの話をした。子供たち１時間目から６時間目まで授業があるが、それは反射的に嫌だと言う。でもクラブの時間は楽しみという。中身は一緒のはずで、授業というだけで嫌、クラブが何でいいかというと、自分が好きなことを好きなようにできるからという。（クラブでも）スキルアップしているが。その辺りのところは多分大人でも同じ気がしている。

・ やはり言葉選びも大事だし、（学びの場）そのものに求めるものをよく考えて設定しないとニーズには合わなくなったりすると思う。

・ 参加者が求めているのは、どんどんスキルアップすることというよりも、

何か新しい自分とか、今よりもちょっとよりよい自分とか、そういうほんのちょっとのプラスアルファをきっと求めているだろうし、自分の調子に合わなければ参加しなくてもいいぐらいの縛りのものを求めているのではないかと思う。

・ 学びというものには、実がある学びというものも、それこそ専門学校とかあると思うが、恐らくここではうんと緩い学びのニーズがあるであろうし、そういうものを用意しておかないと、いわゆる来てくださる方々とニーズとは合わないと思う。

・ 何か参加することで、自分が満足できた、何か昨日とはちょっと違う自分になったような、そういう自分の満足ができるようにとすると、発表の場とかを設けるよりも、ちょっと変わった自分を自分でちょっと実感するというか、温めるというか、味わうというか、そういうようなもののほうが大事で、だとするとやっぱりカフェとか、ちょっとしばらくゆったり座って、一緒に参加した人としゃべれるような空間があるとか、そういうものが参加者をより増やすには有効なのかなと思った。

【会長】

・ 今の自分の確認というか、ある種の承認欲求の・・・というか、そういうレベルの学びというと、分かる、味わう、できるよりもさらにもう少し外周部にあるものなのか。

・ そうすると、学び・〇〇という、〇〇というところを埋めると、割と広い大田区流の表現ができるかもしれない。もう少し時間をかけて表現を工夫したい。

【委員】

・ 今のお話を伺っていて、私も似たようなことを考えている。

・ 一つ目が、自分が学ぶ側だとしたときに、教える側というのは本当に必要なのかということ。というのは、7ページで講座・講師というのと、相談・コーディネートというのがあって、これは別々のものなのか、一緒なのか、あるいは本当に両方ともいるのか、どれも全部いるのかというふうに考えたときに、学ぶときに必ずしも教える側というのはいなくてもいいのではないかというのが一つ目。

・　二つ目が、学びたいと思ってくる人は、学びたいものがはっきりある人はいいが、何を学びたいのか自体もはっきりしていないけれども、何となく漠然と今よりも上に行きたいというか、何か一つ進みたいという人がいたときに、そういう人に対して何を学びたいのかを教えてあげることというのは、多分、できないような気もしている。そうすると、それをサポートすることは結構難しいし、その答えというのは実はその本人の中にしかないのかもしれないと思うとすると、何か必ずしも先生役みたいな人が答えを持っているわけではなくて、一緒に伴走して、その人自身が答えというか何か、何を学びたいのか自分自身が気づくように仕向けてあげるような機能というのもあるのかなというふうに思った。

・　それに関連して、自分の子供３人いるが、そのうち一人は、例えば勉強とかを、どんどん自分でも進んでやっていく。だから勉強する、学ぶということを苦に思っていないというか、おもちゃで遊ぶのと同じような感覚で勝手に学んでいく。そういう子にとっては、学ぶとは身構えてやるようなことじゃない面があると思う。そうすると誰にとっても何かそういう分野みたいのはあるのかもしれないので、何かそれらに気づかせてくれる場所があるといいと思っている。

・　３番目が、6ページの行政課題の中に、孤独と孤立対策とあるが、重たいと感じ、これはどう受け止めたらいいのか、よく考えなければいけないと感じた。

【会長】

・　孤立、孤独について、何となく事務局の説明を聞いたときには分かったような気がしていて、自分の達成とかあるいは自分の存在の意味とか、そういうものを認められたという感覚とか、そういうものが得られるというふうに考えると、この孤立対策みたいなことでもつながると、そういう思考回路だったのかなというふうに納得している。そんなに生涯学習と無縁な話でもないと個人的には考えている。

【委員】

・　今、大学でもリカレント教育が大学のほうに求められて、大学でも講座の整理をしているところだったので、とても興味深く聞いた。

・　大田区はこの生涯学習の学びということを、戦略としてどう使っていくのか。これをどのように地域課題とつないでいくか、例えば子供たちのスポーツを推進するために審判が足りないということがあったときに、ボランティアでサッカーの審判の資格を取りに行ったりしていることがあった。それで、区内の審判の数が増え、子供のスポーツが豊かになる。
・　さらにこの成人教育の中で学ぶことのよさというのは、何か資格を取って、例えば今１００年時代で、何歳でも色々な仕事ができたりする場合に、自分が続けてきた仕事プラスアルファのところで何か資格を持っているとか、そういったことはすごくプラスになると思う。ただ学ぶというだけではなく、修了をしたものに対して修了書を出す。あとはみんなで何か資格を取りに行くようなものがあれば資格を取りに行くとか、そういうようなことにつながるというのが一ついいと思った。
・　図書館がすごく学べる場にいいというのは、とても納得する。何か学びに行った後は、必ず本屋に寄りたくなる。区の図書館をうまく利用すれば、あそこにあんな本があったなということで、図書館の利用も促進されていくと思う。
・　また、学びという言葉が出ていたが、確かに学びということが、ハードルを上げている場合もあると思った。義務教育の時代の与えられるもの、やりたくもないものから、大人になったのだから、選んで学べるというチャンスを増やす。
・　選択肢が増えるということは、ユーザー側からすると迷いも生じるので、例えばこれは１回だけのセミナーとか、３回で一つのコースとか、これは資格にまでつながるとか、見せ方と履歴書に残せるようなもので、例えば大田区のほうから修了証を出してあげてもいいと思うが、その一つが、就職活動にプラスになったり、社会貢献活動の証明になったり、そういうものになればいいと思った。
・　学校でジュニアリーダーというのがある。それに参加したことによって点数がつく、進学のときに。ジュニアリーダーの活動をやっていたというと、受験のときにプラスになる。
・　それから、リーダー講習会でも何でも分かるじゃなくて、味わうとでき

るというところに喜びを感じている。新しい競技が出ると、大田区が講習会をやる。リーダーがそれを学んできて、学校でそれを学ぶ、すると、またその子が大人を教えてくれる。

・ それなりに青少年対策委員というところでは、子供たちが楽しく遊んで学んでいる。それに参加している子は本当にいい子が多い。

・ 9ページの実施状況は、行政側からの視点か？

【事務局】

・ 行政側として、各要素の実施状況を整理したものである。

【会長】

・ 学びについて、言葉とかあるいはその中身について随分深めた議論ができた。

【委員】

・ 生涯学習というのは、体系として語らないといけないと思った。だから、１個、生涯学習という何か物があるというふうにとらえるというより、色々な形があるのを示さなければいけないと改めて感じた。

・ とりわけ、自由な豊かさにつながっていくいような形と、成果が欲しいという方にとっての両方があって、どちらかを否定するものでもないということを表現するという、非常に難しいと思うが、だからこそ、こんな幅がある、こんな広がりがあるということを・・・ここの部分に対してはこういうふうに進めるという言い方をしていく、その住所みたいなものを見つけていくということは、やっぱり必要だと思う。

・ 先ほど他の委員からあった、行政課題解決の手段にしないという点が、ここの委員会からの話としては非常に重要な点ではないかと思った。

・ （『おおた生涯学習推進プラン』推進会議委員は、）行政課題解決のため協力委員ではない。追求していったら、行政のほうから見たら解決につながるかなというふうに思っているということと、合わさるところもあるかもしれない。しかし、合わないから、それは、推進に値しないということは起こって欲しくない。色々な学びの姿があるということを（推進会議で）考えると同時に、わかりやすく事務局に整理してほしいと思った。

（４） モデルケースとする施設及び新たな生涯学習センターにおいて重点的に担う機能

【会長】

・ 次に議題４「モデルケースとする施設及び新たな生涯学習センターにおいて重点的に担う機能」について、事務局から説明をお願いする。

【事務局】

・ 資料に基づき説明

【会長】

・ 先ほどの課題の整理に基づいて、それぞれの施設で重点的に担う機能について、事務局案が示された。この案を検討していただきたい。
・ 本日欠席している委員からの意見を紹介する。
・ 一言で相談、コーディネート機能といっても、窓口で区民からの相談を受けて、その人にあった団体や活動につなぐためには、区内の学びに関する情報が蓄積・整理されていないといけない。また、今回主に学びの場として検討している図書館や文化センターだけではなく、学びに関する相談はその他の施設で受ける可能性もある。生涯学習センターには、それら現場での相談・コーディネート機能をサポートするための情報収集・共有が求められる。
・ センター機能については、第４回で協議する予定だが、現場をサポートする機能は重要であると思う。
・ 文化センターでも生涯学習センターではないが、田園調布せせらぎ館についての提供があった。この指定管理者の選定は、実は私が関わっており、第２回目の選定が昨年行われたが、そこで、現指定管理者から、専任のコーディネーターを置きたいという提案があった。自主的に地域のコーディネートをしたいという提案をして、現にこうやって取り組まれているというのを知って、指定管理の選定委員会の一メンバーとしてうれしく思った。一つの参考として、今日、紹介いただいた。

・　事務局案についてご意見、ご質問等をいただきたい。

【委員】

・　私のイメージでは、生涯学習センターというのは大田区の中に、情報とか人材とかが全て集まる施設ということで立派な施設を造るというわけじゃなくて、そこに全ての情報が集まるところが必要だと思う。

・　それぞれの自宅から歩けるところに、徒歩１０分か１５分以内に、一つのそういう拠点をつくること、地域の拠点をたくさんつくったらいいと思う。既存の図書館とか文化センターが活用されるのであれば、それでいいと思う。地域の拠点でそれぞれ特徴のあるものをつくっておく。図書館は図書館機能として残すが、プラス、コミュニティスペース、色々な人たちが交わって何かできるというところとか、コーディネーターというつなぐ人が、地域のことをよく知っている人がいる。あとはそれぞれの拠点ごとの特徴を持たせればいいと思う。徒歩圏内に拠点を持つということが重要だと思う。

・　こういう機能を全部やろうとすると、それなりの組織が必要だ。そうすると、今あるようなところでは無理だろうというふうに思うというのが１点。

・　また、文化センターとのすみ分けというのを考えると、生涯学習センターは情報提供とコーディネートを中心とする。コーディネートをきちんとできれば、あとは文化センターで具体的なものは進むのであれば、頭が二つも三つもないのがいいと感じる。

・　本当の重点機能は、黒丸三つとかというふうにしないと、同じものの重複というのはもう要らない時代だというふうに多分言われるので、気をつけた方が良い。

【会長】

・　確かに、12ページの表だと新生涯学習センターの機能と文化センターは、一つの機能を除いて、ほぼ重なっているので、どこに重点があるのか説明してほしい。

【事務局】

・　生涯学習推進の拠点が生涯学習センターで、文化センターはそれぞれの

地域に、サテライトとしてネットワークでつながっている。

・　同じコーディネート機能にしても、やはり地域ごとに求められる人材だとか、その地域のことをよく知っている人が必要ということもあって、機能の重複が生じている。

・　（事務局補足）12ページの一覧は、利用者の視点で見た機能を整理したもので、その機能を果たすための体制等は、第４回までに事務局案をまとめる。利用者側から見ると、生涯学習センター、文化センターの機能はほぼ重複することを想定している。

【委員】

・　事務局の考えはわかったが、そうすると11ページの図も少し違うのではないか。生涯学習センターが中心にあって、図書館や文化センターが周りにあるというふうなもので、あとは階層的なものにしていくような形にしておかないと、実際のイメージが湧かないのではないかと感じた。

・　（事務局補足）11ページの図は、生涯学習センター、図書館、文化センターが地域の学びの場として理念を共有することを表した図であり、施設間の関係性を示したものではない。第４回以降、関係性のイメージ案を提示する予定。

【会長】

・　イメージ図について、中身の構想が深まれば少し変わってくるかと思うが、生涯学習センターは例えば福祉の世界では、大田区全体をみる１層で、２層が各コミュニティの文化センターというイメージ。それぞれ１層のコーディネーター、２層のコーディネーターというが、そういうイメージで同じ恐らくコーディネートにしろ、相談にしろ、全区的な観点と、地域コミュニティの観点と、多少の性質の違いがある、そういうふうに読んでいて、同じ黒丸がついているけれども、そこにはおのずと若干、差があるという、そういう理解をすると良いのではないか。

・　１層と２層というか、今、臨時にそういう言い方をしているが、（生涯学習センターと地域の文化センターで提供する機能の）レベルの差があるということだと考えている。

・　（事務局案について）概ねこういう内容で考えていってよいか。また次

回の推進会議で、議論を深めていきたい。

【委員】

・　生涯学習センターは、機能面でのことで、指令室的な事例的な情報のセンターで、実際的な地に足がついた場は文化センターというふうに、話を聞いていた。（事務局から実際の施設のイメージで説明があったので）センターの一定計画を確保ということを想定されているのか。

【事務局】

・　まだ、生涯学習センターの構想は、全く進んでいない。どんな機能を持たせればいいのかなどを、推進会議の場で検討いただくということになる。

・　ただ、生涯学習センターの位置づけとして、生涯学習の拠点として考えており、その周りに文化センターがあるという、先ほど、会長から１層、２層というコメントいただいたが、そういうイメージを持っている。

【委員】

・　機能には組織が必要でということを考えたら、学校に対する教育委員会のように、生涯学習センターに対する文化センターという関係なのか、生涯学習センター自体も実態を合わせもつのか、ということを整理しておきたい。

【事務局】

・　まず、大田区の文化センターというのが、教育委員会から区長部局のほうに移管された。それまでは、講座等を実施していたが、現状は貸館業務が中心となっている。

・　生涯学習推進プランを策定してから、（各地域での学びやつながりを推進するため）専門職である社会教育指導員を、試験的に三つの館に週に２回ぐらい派遣し、そちらで相談会を開いたり、あるいは地域の人を巻き込んで事業をしたりしている。

・　その中で、やはり文化センターを束ねるような拠点となる施設が必要なのではないかと考えている。

【委員】

・　推進に当たって、どこで誰が一番機能してほしいかというところは、文

化センターのところにもやっぱり期待があるということ、その文化センターが、ここではやりにくくてというので、やっぱりハブになるようなところがほしくてという意味で、階層的に一つ上にある生涯学習センターというのが必要だというところまではわかった。

・ 今の意見に関連して、生涯学習センターの機能はもしかしたらホームページの機能でできるのではないかと思った。本当にハードで人と場所が必要なのか。

・ 例えば、機能が、ホームページにいる例えば左のバナーみたいな形になって、情報提供というところをクリックすると、大田区内のいろんな講座がばあっと一覧で出てくるとか、例えば選択機能で何かスポーツとか芸術なのか、文化なのかというところをクリックすると、色々なものが出てくるということで情報提供になったり、もちろん講座もそれに合わせてたくさん講座名が並んでいたり、相談というのも、もしかしするともうちょっとしたらＡＩとかが使えて、相談を入れると、大田区のデータと紐づけて、あなただったらこういうのどうですかとかということができるなど。もしかしたら人の育成とか、コーディネートも、何か動画で見るもの、動画で見て準備性として知識を得ておく。集合研修は文化センターで行うなど。活動の場というのはもちろんバーチャルのところでは無理だと思うので、そういうところは文化センターを使う、確かにこれはホームページの中の項目としても立てたら分かりやすいと思った。

【会長】

・ 施設には、設置条例があり、設置条例の第１条に目的が書いてあって、今後こういった大田区の生涯学習プランを推進していくために、その設置条例をどういうふうに改正するかとか、そういうことを取り扱う部署が必要。

・ 個別の文化センターではなくて、大田区全体で必要とされるような講座を運営するとか、そういうことも必要なのかもしれないので、全部ホームページで済むわけではないかもしれない。

・ いずれにしても、何かそういうセンター的なものを物的にも必要だというような人もおり、区役所で済むのではないかという、そういう考えも

あるかもしれないが、少なくともここで整理されているのは機能なので、そういう機能が大田全部のレベルでセンターとして必要であり、各コミュニティレベルで文化センターとして必要であるという、それは一応、大体皆さんの共通認識でよいかと思う。

・ 事務局から示された案を今後話し合うベースとして了承して先に進んでいくということでよろしいか。

【委員】

・ 12ページの表の縦軸、一番左と９ページの一部が重なっているが、この縦軸だけで指すと、１層目、２層目みたいなことで表現すると難しい。というのは、この縦軸はあくまで利用者目線での機能であって、いわゆる施設の管理体系みたいなものの機能は、ここでは表し切れていない。それらをもう少し整理していただくと、わかりやすくなると思う。

【会長】

・ 三次元的な整理が必要かもしれないが、事務務局から示された役割・理念は、図書館、文化センター、新たに検討する生涯学習センターで共有することとし、それぞれの施設で重点機能を分担していく、ということで大枠は合意いただいたということでよろしいか。

（異議なし）

・ 他に意見がなければ、本日の議事を終了し、進行を事務局に戻す。

７　閉会

【地域力推進部長挨拶】

・ たくさんのご意見いただき感謝申し上げる。

・ 特に、区民にとって敷居を低く、裾野を広げた形で進めることが重要と改めて感じた。徒歩圏内など、身近な形で生涯学習というものを感じていただかなければいけないと改めて感じた。

・ 生涯学習という言葉についても、もう少し違う言い方がないのかという意見をいただくことがある。高齢者が主な対象という見方も依然残っている現状。本日の会議で、幅広く捉えるべきというところを改めて感じたので、そうしたことが区民に伝わるような形で進めていきたいと思う。

・　生涯学習センターについては、中核を創っていくということで、先ほどまとめていただいたようなことが考え方としてある。それを具現化していくような形で、今後も進めていきたい。
・　前回は、池上文化センターを見ていただいたが、本日の建物は、嶺町特別出張所と文化センターが併設されている。後ほどご案内するので、時間が許せば見学いただきたい。
・　次回も、会場である新蒲田一丁目の複合施設をご案内したいと思っている。また今後、先ほど話題になったせせらぎ館も、ご覧いただきたい。令和６年には、大森駅の近くに入新井第一小学校と併設で新しい複合施設もできる。どれも文化センターではないが、多世代、学びというところも意味合いとして持たせている部分もあるので、ぜひ現場を見ていただきながら、この議論を今後も深めていただきたい。

【事務局】

・　第４回推進会議は、５月31日（金）14時からカムカム新蒲田にて開催を予定している。
・　11月のワークショップに参加いただいた方の中から、ご都合がつく方に集まっていただき、機能を果たすための諸条件などについて、意見を伺うことを予定している。
・　追加のご意見は、事務局に送っていただきたい。
・　以上をもって、閉会とする。

以上

【会議後に委員からいただいた意見要旨】

・　機能とハード面（施設など）及びソフト面（維持、管理、運用、制度など）を総合的に考えることが重要と感じた。
・　大田区の「生涯学習センター」は、シンボル的に目に見える必要性はありますが、立派な施設（ハード）ではない。
・　地域ごとの活動が活発になることが重要で、地域性の重視や日常生活の中に組み込まれる必要がある。
・　できれば、すべての住民が徒歩圏内に活動できる場が必要。

- 既存の文化センターや区民センター及び図書館などの施設を活用し、それぞれの地域にある施設に「地域の学びの場」コーナーを設けることも可能と思う。
- 既存の機能を活かした「地域の学びの場」コーナーを新設できると思う。
- 「生涯学習センター」は地域拠点を総合的に管理できるハブ機能（情報、人材、金など維持・運用管理）を有したシンボル的存在である必要がある。
- 情報発信力を強化し、住民の皆さまに周知させ行動に繋がるよう存在感を高め、対外的（区外にも）にも認識してもらう必要がある。
- 「地域の学びの場」コーナーには、地域を理解した地域コーディネーターを配置し、その人材育成を計画的に継続的に確保する仕組みが必要。
- 上から目線の地域の実態を知らない専門職員の定期的訪問だけでは、地域の活性化や継続性につながらないと思う。